

# 全酪連会報 2

2025 FEB No.713



若手後継者の本音／  
中西裕哉さん

監査室だより／  
内部監査や自主検査の  
「目的」と「必要性」について

日本酪農見て歩紀／  
株式会社松崎牧場  
(岡山県岡山市)

酪農トピックス／  
「High School Loves MILK!! in 都立農産高校」  
本会が特別授業を開講!! (酪農部)ほか

令和7年 各地域酪農青年女性会議  
酪農発表大会 開催のご案内

酪政連活動報告

(一社)全国酪農協会の  
酪農共済制度のご紹介 第4回

農林水産省／  
ランピースキン病の早期発見と  
まん延防止対策のお願い

人事異動

LINE公式アカウントができました!  
登録をお願いします!



 全国酪農業協同組合連合会

この度ご紹介するのは、北海道東端に位置する別海町の中西牧場 中西裕哉さんです。別海町は酪農と漁業が盛んであり、日本一の生乳生産量を誇ります。所属する中春別農業協同組合（望月英彦代表理事組合長）は酪農を事業主体とする農協で、令和5年度末時点の生乳出荷戸数は149戸、出荷乳量は117.440tとなっています。

中西牧場は、この度お話を伺った裕哉さんと奥様、ご両親の4名で、経産牛60頭、育成牛70頭を飼養しています。昭和32年に裕哉さんのお祖父様が入植したのが牧場の歩みの始まりで、3代目となる裕哉さんは帯広畜産大学別科を卒業後にご実家に就農し、令和3年1月にお父様より経営を譲り受けました。奥様の美味さんは同じく帯広畜産大学別科出身で、在学中に出会い裕哉さんと平成29年7月にご結婚されました。かわいいお子さんが3人いらっしゃいます。



▲ 中西裕哉さんと3番目の次男の弥夢ちゃん

今回は、北海道別海町 中西牧場の後継者 中西 裕哉さんにお話を伺いました。

### 就農は希望どおり、就農後は管理から経営まで

酪農という職業が好きで、高校生くらいから将来実家を継ごうと思っていました。大学は環境の異なる酪農を見ようと帯広畜産大学の別科に進学し、父の体調不良もあり大学卒業後はすぐに就農、管理から経営まで任されることになりました。

2010年に就農した際は、主に母が牧場を管理していましたが手が回りきらず、200頭ほどに牛が増え、また長期未授精も多かったです。就農後、まずは労働人数と草地面積に合った適正頭数にそろえることから始め、年間必要な頭数を決めたくらうえで残りは販売に回しました。初代の祖父の頃から牛を大切にし、体格審査や共進会で改良を進めてきたおかげで、長生きしてくれる牛が多いのでありがたかったです。以前は70頭くらいホルスタイン雌をとっていましたが、ここ数年は25〜30頭とし、残りは和牛とF1にして販売しています。雌の頭数を減らした分繁殖管理は重要で、最近は繁殖成績が悪くなってきたと感じており、改善していきたいです。

### 働きやすい環境で、家族関係良好に

就農当初、牛の増加に伴い子牛もたくさんいたのですが、すべて屋外のハッチで管理してい

ました。冬場や荒天時など厳しい作業環境で母が管理してくれているので、気になるところがあっても口出しするのもしないし、喧嘩のもです。そこで環境を整えてから作業を整理しようとして、哺育舎を新設しまし

た。設計にあたっては視察等で情報を集め、特に重要な換気については換気扇とダクト換気を設置してどのハッチにも風が来るようにしました。また、誤飲の危険性のある哺乳バケツをやめて哺乳瓶での給与に変更しました。分娩後、初乳給与まで自分で行ってから哺育舎に移し、母に任せています。母は子牛の状態をよく見てくれて病気をすることはほとんどありませんが、昔と今とは飼養管理の正解も違いますので、母のやり方を尊重しながら哺乳量や換気などを確認するようにしています。

放牧をしているので、搾乳牛は体力があり、乳量もあまり求めているので、飼養管理によ



▲ 搾乳牛舎

# 若手後継者の

# 本音

## Vol.73

【経営概況】

所 属 中春別町農業協同組合(望月英彦代表理事組合長)  
家族構成 中西裕哉さん、奥様の美咲さん、ご両親  
飼養頭数 経産牛60頭 育成牛70頭  
草 地 採草地80ha (うち放牧兼用地18ha)

## 家族で働きやすい牧場を目指して

る病気はほとんどありません。乳成分を見ながら飼料を調整するなど、牛の変化に気づき早めに対処できるように心がけています。それでも手間のかかる牛は淘汰して健康で飼いやすい牛を残しています。一方で、分娩事故による死産が年3〜4頭と多くなっていることから、昨年からはフリーバンの乾乳牛舎を新設しています。単身の時にはいつでも牛舎に行くことができましたが、今はなかなか難しいので、施設を整備して改善を図りたいと考えています。

治療や事故、それに伴う獣医対応は経営の口スにもなりますが、例えばバケットの頭数が増えると家族の機嫌が悪くなり家族関係にかかわります。良好な家族関係を築くために健康な牛が多いほうが良いんです、自分が一番立場が低いので(笑)。



▲ 哺育舎、東側の屋根から採光があり明るいハッチ2棟分に子牛1頭が入り敷料もたっぷり入れている



▲ 建設中の乾乳牛舎

### 何でもトライ！ アンドエラー

施設の改修や管理の変更にあたっては同志会・青年部での視察や先輩方の体験談などがとても役に立ちありがたいです。大学時代は十勝の農場もたくさん視察してきたので、良い農家さんの共通点を探して取り入れるようにしています。また、わからないことや悩みは近隣の農家さんに思い切った聞きまします。人と話すことが好きですし、尊敬できる方、教えてくれる方が近くいるのはとてもありがたいです。良い情報を仕入れたら、まずは取り入れてやってみる。それで効果が出ればラッキーですし、手間だけ増えるようならすぐにやめたらよいと考えています。そのようなトライアンドエラーを繰り返して、管理方法を変更してきました。例えば暑熱対策について、就農時は換気扇ゼロだったところから少しずつ勉強をして設置を進めた結果、一昨年の猛暑の中でも牛をだめにするとはなく、また人間にとっても快適な環境になりました。逆に、ゲノム検査については取り入れてみましたが、うちの牧場は牛群の更新が遅く、ホル雌も必要頭数しかとらないため、改良のスピードも遅くメリットを感じませんでした。それよりも長命産産を意識した牛群で長く搾れる牛をそろえていければいいと考え全頭ゲノム検査は実施しています。牛群改良には代々力を入れていて共進会にも出品しています。3世代がいる長

命連産の牛群が理想で、私の代になり体格審査において2頭エクセレントをもらえたことはとても自信になりました。

先々代、先代と築きあげてくれたこの牧場を代が変わって経営が悪くなるのは両親に申し訳ないし私自身も悔しい、だからこそ頑張りたい。そのため情勢や気候・現在の規模に合ったやり方に変えていくことは大切だと思っています。

**家族ファーストで幸せな牧場に**

卒業して就農した時は「牛を増やして規模拡大」と思っていました。子どもができたこともあり自分に合ったペースでやっていければよいと思うようになりました。

現在、家族には月に何回か休日がとれるようにヘルパーを頼んでいます。今後は雇用がヘルパーでシフト制にしたいと考えています。母は牛



▲ 育成牛のバドック  
今年改良して飼育環境の改善を図りたいとのこと



▲ 放牧風景「この景色が好きで、帰ってきたんです」とお話しされた

をよく見てくれるので、不在がちである私にとってありがたい存在であり、奥さんは同じ別科の出身で、作業はもちろんですがトラクターにも乗れます。経営者として、従業員にあたる2人には長く無理なく働いてほしいと思っています。そんな姿を見て、将来子どもたちが酪農をやりたいと言ってくれたら嬉しいですね。親の仕事を見られるのが酪農の良いところだと思っています。ですので、これからも私は家族が気持ちよく仕事ができる職場を作り、そして、両親から引き継いだ大切な牧場をより発展させていきたいです。

.....

取材の中で、裕哉さんからは「自分、生態系（ご家族）の一番下なので。」「従業員さんがトップ。」「不在が多いので（子どもとお風呂とか寝かしつけ）やることやしないと怒られちゃう。」「とちよつとユーモアを交えながらも、ご家族を大切にさ

れている発言が多数ありました。奥様の美咲さんは「やつと（子育て）やるようになったんですよーでもまだまだですけどね！」と言われているが、裕哉さんを信頼されている様子が伺え、「ご家族が思いやりそして協力して酪農をされていることが伺えました。

中西牧場の皆様のご健康と、新しい年も素晴らしい1年になりますことを願っております。

この度は大変お忙しいところ、快く取材にご協力いただき誠にありがとうございました。

**全国の若手後継者の皆さんへの一言！**

厳しい情勢は続いています、家族や仲間と助け合って乗り越えていきましょう!!



# 内部監査や自主検査の「目的」と「必要性」について

今回の監査室だよりでは、内部監査や自主検査の「目的」と「必要性」についてケーススタディを交えながら説明したいと思います。会員の皆様におかれましては、内部監査や自主検査に携わっている方もいらっしゃると思いますので、参考になれば幸いです。

## 1 内部監査と自主検査の主な目的

まずは内部監査と自主検査の目的について説明します。

### 内部監査

経営陣から独立した「内部監査部門」が実施し、内部統制が適正に運用されているかを評価・確認すること。

### 自主検査

現場の部門や業務担当者「自ら」が実施し、業務の適正さや効率性を点検し、問題を発見・是正すること。

これらを適切に実施することで、組織内部の問題点を早期に発見し、組織全体の改善につなげることができます。

## 2 内部監査と自主検査の必要性

2000年代以降、国内外で企業の不祥事が相次いだことで、内部統制（組織が事業活動を健全かつ効率的に運営するための仕組み、即ち規程等、組織内の全員が遵守すべきルール）の重要性が再認識され、農協を含むあらゆる組織に対して内部統制を重視する動きが広がりました。

しかし、組織が内部統制をどれだけ強化しても、自部署にて全ての事項を完璧に管理するこ

とは困難です。そこで、管理体制を補完する上で適切な内部監査や自主検査を実施することが重要となります。組織が健全性と社会的信用を維持するためには、内部監査や自主検査を通じて、リスク管理や業務運営の適正化を図ることが欠かせません。

## 3 ケーススタディ

内部監査・自主検査の必要性をより理解していただくために、内部統制が機能していないことで起こり得るケースと未然の防止策の例、そして、それを監査時にチェックするポイントを紹介します。

### (1) 不適切な承認による取引

#### 事例

サプライヤー選定において、営業担当者が本来の承認プロセスを無視し、全ての決裁を自己のみで行い、自身の親族が経営する会社と契約を締結していた。

#### 影響

高コストのサプライヤーを使用していたため、企業の利益が圧迫。また、不透明な取引が問題視された。

対策

サプライヤーの選定基準や決裁までの承認フローの標準化。営業部門と経理部門による二重承認の必須化。

チェックポイント

選定時の根拠資料が妥当であるか。伺書やりん議書等の支払い決裁権限は適切か。該当部門の押印がされているか。

(2) 従業員による不正な資金流用

事例

現金管理を1人の従業員に任せきりにしていた結果、その従業員が長期間にわたり現金を着服していた。

影響

発覚時には多額の損失が発生し、現金の管理方法が問題視された。

対策

複数人のチェックが入るような現金管理体制。定期的な現物確認。

チェックポイント

現金の有高票に担当者のほかに確認者の検

印があるか。出納記録がシステム上のデータと相違がないか、また、現金出納後、データは速やかに起票されているか。

(3) 在庫管理の不備

事例

在庫の管理システムが適切に運用されず、帳簿と実在庫との過不足が発生。さらに棚卸作業が杜撰で横領等の不正が見逃ごされていた。

影響

財務報告の信頼性が低下し、コスト管理の破綻。

対策

在庫の管理システムのマニュアル化。棚卸作業の複数人での実施。

チェックポイント

棚卸作業の実施結果が適切に記録されているか。実在庫と帳簿に差異が発生した際に調整プロセスが実施されているか。

ここには重大な事案を例として挙げましたが、内部統制が働いていない、また内部監査や自主検査が行われていない状態が大きな影響を

もたらす可能性があることがご理解いただけかと思えます。内部監査や自主検査では、ケースタディに上げたような対策がルール化されているか、また、それらが遵守され正しく機能しているかを確認する必要があります。

4 おわりに

近年、内部監査には規定等との準拠性や法令違反の有無の確認に重点を置いていたアシユアランス監査から、課題の解決策を提案し組織の成長を支援するコンサルティング監査が求められています。

いずれはこうした発展的な監査を行うことが理想ですが、まずはアシユアランス監査としての内部監査や自主検査を実施し、組織内に適切な管理体制を構築することが求められます。そして、これらの取り組みを通じて、組織が社会的責任を果たしつつ、継続的に発展していけるよう努力を続ける必要があります。





▲ 株式会社松崎牧場4代目 松崎光紀さん

株式会社松崎牧場  
岡山県岡山市4代目が目指す  
地域と共に歩む牧場

## 地域の紹介

「株式会社松崎牧場」がある岡山県岡山市は、瀬戸内海に面した岡山平野に位置し、降水量1㎜未満の年間日数が最も多いため「晴れの国おかやま」と呼ばれており、瀬戸内海特有の風土により温暖で日照時間が長く、自然環境に恵まれた県庁所在地の都市です。また、瀬戸大橋、岡山空港、山陽自動車道などの交通網が集中し、近畿・九州・山陰・四国を結ぶ中四国地方の中枢拠点都市として発展を続けています。中心部には岡山城や日本三名園のひとつである岡山後楽園があり、自然と文化が調和した都市空間を形成しています。

## 組合の紹介

今回訪問した株式会社松崎牧場は、おかやま酪農業協同組合（榎尾康知代表理事組合長）に所属し



ています。令和5年度の生乳生産量は92,569t（前年比97・5%）で、関係機関を含む搾乳農家戸数は148戸（令和6年8月時点）となっています（会報誌より抜粋）。平成14年4月1日、岡山県酪農業協同組合連合会と岡山県下4つの酪農専門農協（旭東酪農業協同組合、水島酪農業協同組合、瀬戸内酪農業協同組合、ホクラク農業協同組合）が合併して発足し、現在は岡山県津山市に本所を構え、5つの事務所（津山事務所・蒜山事務所・西大寺事務所・びほく事務所・備南事務所）、配送拠点であるセンター・検査室・クレーンステーションなどの施設を要しています。

## 牧場の概要

株式会社松崎牧場は代表取締役の松崎範之さん（51歳）、光紀さん（28歳）、奥さん（28歳）の3名で作業されています。繋ぎ牛舎および口

ポット牛舎（搾乳ロボット1台）を1棟ずつ要しており、現在の飼養頭数は搾乳牛70頭、乾乳牛20頭、育成牛50頭で、1日の搾乳量は2tほどです。自給飼料生産にも積極的に取り組んでおり、イタリアンライグラス・スーダン・WSC・敷料用のわらを栽培しています。作付面積は近隣農家から借り受けた土地を含め約40haと広大ですが、搾乳ロボットを導入してから自給飼料生産に力を入れられるようになったそうです。

牛舎の前にはジェラート店「GENUINO」を構えており、搾りたての新鮮な生乳を使ったジェラートの製造および販売を行っています。光紀さんのお母さんと妹さん、スタッフ2名が作業されており、店舗は土日祝のみの開店ですが、ネットでの販売も行っています。

▼ ロボット牛舎外観



▲ ロボット牛舎内の様子 トンネル換気を導入し環境面に気を付けている

学し、初めて酪農の勉強を始めたのは中国四国酪農大学校に進学してからです。酪農の知識がなかった分、酪農大学校では目新しいことだらけの毎日で、学校生活を通じて飼養管理の面白さに気づいたそうです。また、奥さんと出会ったのも酪農大学校で、卒業後は松崎牧場の哺育管理を任せ、共進会で勝てる牛に育てるために、いかに病気をさせずに育成できるか、周りの酪農家に聞きながら2人で改良していったそうです。

### 繁殖管理と改良への目覚め

光紀さんは繁殖管理や改良に熱心に取り組まれており、そのルーツは酪農大学校2年次に行った研修先での出来事になりました。当時、松崎牧場では搾乳ロボットの導入を考慮しており、搾乳ロボットを学ぶために

も北海道での研修を選んだそうです。研修先の牧場では搾乳ロボットを見た一方で、きれいな飼いやきれいな牛群が強く印象に残り、改良や共進会に興味をもつ大きなきっかけになったそうです。また、もう一つの研修先として岡山県の牧場を選び、直検ができなかった当時の自分を頸管にストローを通せるまで成長させてくれたそうです。直検ができるようになると自分でも種を付けたいと思うようになり、繁殖管理に興味をもつ大きな出来事だったそうで、今でも本当に感謝していると語ってくださいました。

▼ 育成牛舎 共進会に出品する牛は手前のパドックで管理



▲ 平成29年に導入した搾乳ロボット

### 就農後の改良の道のり

就農1年目は頸管に通せるようになったことが嬉しく、種付けが楽しいと感じるようになったそうです。もちろん、頸管に通る瞬間は今でも感動するため、常に初心を忘れないでいられるとのこと。就農してからはとにかく繁殖管理が好きで、繁殖改善されるような飼料内容や牛舎環境を意識して取り組むようになったそうです。

就農2年目の2017年にロボット牛舎が稼働し、搾乳ロボットに合

就農1年目は頸管に通せるようになったことが嬉しく、種付けが楽しいと感じるようになったそうです。もちろん、頸管に通る瞬間は今でも感動するため、常に初心を忘れないでいられるとのこと。就農してからはとにかく繁殖管理が好きで、繁殖改善されるような飼料内容や牛舎環境を意識して取り組むようになったそうです。

就農2年目の2017年にロボット牛舎が稼働し、搾乳ロボットに合

給与体系も乾草メインのPMRからサイレージメインのPMRに変わり、牛の状態を見ながら粗飼料を増やしています。また、乾乳牛にも搾乳牛と同じTMRを与えており、分娩後の立ち上がりを意識したことで、ケトosisなどの疾病が減ったそうです。現在は、立ち上がりから種付けまでの管理にも注視しており、発情予定前後にビタミンを与えることで初回発情から種付けが可能となり、

### 酪農に初めてふれた学生時代

今回お話を伺った光紀さんは株式会社松崎牧場の4代目です。中学生の頃から牧場を継ぐ気持ちはあったものの、高校では地元の機械科に進



▲牛舎回りの圃場 ロールがたくさん積みあがっている

シヨーカーウでも泌乳ピーク前に種を付けることができているそうです。

### 地域住民や酪農家との交流

株式会社松崎牧場は先代のころから人との交流に積極的で、住宅街にある牧場として地域の交流場を目指しています。ジェラート店「GENUINO」も、酪農家が増えている現状を打破するため、匂いなどといった酪農のマイナスイメージをなくそうと、ジェラートを通じた酪農の魅力発信といった意図もあるそうです。そのため、隣接された牛舎は開放的で、お店を訪れた人たちも自由に牛舎を見学できるようになっています。また、コロナ以降実施

されていませんが、学生の職場体験や酪農研修も積極的に受け入れており、人と牛が触れあうきっかけとなる牧場を目指しています。特に、牛が好きな子供に触れあってもらうことで、将来牛に関わる仕事を指してもらえれば嬉しいと語ってくださいました。

消費者だけでなく農家との交流にも積極的で、自給飼料を栽培する圃場は酪農した周辺農家から借り受けるなど、周辺農家と連携した牧場経営を行っています。また、共進会では、改良に熱のある人と話すことで非常に良い刺激になっているそうです。

### 品質管理と牧場経営へのこだわり

「GENUINO」ではジェラートの品質にもこだわっており、牧場が隣接しているといった利点を活かし、必要な分だけを搾りたての状態での処理・製造しています。また、搾乳ロボットでは生乳の成分を細かく見られるため、基準に満たなかった生乳を乳房ごとにはじいているそうです。特に、風味に影響を与える体細胞数に注意しており、ベットメイクやトンネル換気など環境改善や体調管理にも気を配っています。さらに、搾乳



▲牛舎前のジェラート店



▲店舗で販売しているジェラート

ロボットを導入したことにより、自給飼料生産に時間をかけることができたため、適期を狙った収穫が可能となり良質なサイレージに繋がっているそうです。

株式会社松崎牧場では、こういった優れた畜産経営の技術と功績が認められ、平成21年度農林水産大臣賞（財団法人日本農林漁業振興会）および第49回農林水産祭にて「天皇杯」を受賞されました。評価基準として

乳牛の良し悪しはもちろん、農場の環境、自給飼料の栽培、周辺農家との連携、食育を通じた地域との交流など、牧場経営全ての取り組みが高く評価されています。

### 今後の目標

今後の目標をお聞きしたところ、ロボット牛舎の頭数を増やし搾乳頭数100頭を維持しつつ、共進会で勝てる牛をつくりたいとのことでした。また、自家育成の初妊牛販売などにも取り組み、赤字にならない経営のなかで共進会や酪農を楽しみたいと語ってくださいました。ジェラートについても店舗とインターネットでの販売だけでなく、コロナ以降減少したイベントへの出店を行い、松崎牧場の取り組みをアピールしていきたいとのことでした。

この度は、お忙しいなか快く取材を受けてくださりありがとうございます。日々の管理や改良について考えている時間が楽しいと笑顔で語ってくださいましたのが印象的で、家族との時間や、人との交流を大切にしていることが伝わりました。今後の株式会社松崎牧場のご健勝とご発展を祈念申し上げます。（M・I）

酪農部  
発「High School Loves MILK!! in 都立農産高校」  
本会が特別授業を開講!!

多くの高等学校では学校給食がなく、高校生は牛乳を摂取する機会が減ることから、日本酪農政治連盟（柴田輝男会長）は、以前から高等学校等への牛乳・乳製品の自動販売機の設置を、農林水産省等に要請していました。今般、牛乳を通じた高校生の健康増進、酪農現場に対する理解醸成と牛乳消費拡大活動として、alic（（独）農畜産業振興機構）の生乳需要基盤確保事業を活用し、全酪連が事業実施主体となり、東京都立農産高等学校（葛飾区）において、2024年10月より次世代型牛乳自動販売機を設置し、牛乳販売の実証実験を行っています。

それに付随し、2024年12月16日、同校全生徒を対象とした牛乳消費拡大と酪農理解醸成を図る特別授業を農林水産省と全酪連にて実施しました。

今回の特別授業は、農林水産省 畜産局 牛乳乳製品課 生乳班 生乳流通改善係長の井戸睦巳氏による酪農

情勢報告と、(株)加茂牧場代表 加茂太郎氏による“酪農家の仕事”をテーマとした講演、そして（一社）全酪アカデミーによる就農希望者に対する支援取組の紹介など、2限（90分）にわたり行いました。

同校は農業高校ですが畜産関連の施設や授業がなく、酪農を取り巻く環境や、酪農家の一日、乳牛の生態や飼料、糞尿処理のことなどといった、日頃触れることが少ない内容をテーマとした講演に、約400名の生徒・教職員の耳目が興味深く集められました。

（一社）全酪アカデミーのコマでは、どのような雇用条件で就農支援が行われているのかなど踏み込んだ質問が寄せられるなど、生徒たちの興味が深いことがうかがえる特別授業となりました。



▲ 全酪アカデミー 板倉氏

また、牛乳自動販売機に対しても「こんな商品が欲しい」など様々な要望や意見が寄せられるなど、今回の取り組みでは有益な情報を得ることが出来ました。

師走の体育館は、講師と参加者による牛乳愛と熱気に包まれた「LOVE MILK 高等学校」となりました。（M.A）



▲ 農林水産省 井戸係長



▲ (株)加茂牧場 加茂代表



▲ 出前授業



▲ 農産高校に設置された自販機

酪農部  
発

## 11月16日(土) 豊洲公園で開催された「土日ミルクフェス2024」に「全酪連×全国酪農青年女性会議」コラボブースを出展しました！

本イベントは「学校給食がない日も牛乳を飲もう」をテーマに一般社団法人Jミルクが立ち上げた「土日ミルク」の活動を広げるため、全国の酪農乳業関係者とミルクファンが一体となり国産の牛乳・乳製品の楽しみ方や酪農乳業の魅力について、五感で体験するイベントであり、昨年に続く2回目の今回は、47都道府県の牛乳を飲み比べできるブースやステージが用意されるなど一層充実した内容のイベントとなりました。

本会は全国酪農青年女性会議とのコラボブース

で、全国各地から集めた牛乳・乳飲料約800本の販売を行ったほか、「え！あたし牛乳好きかも-Face paint- by I♡milk ZENRAKUREN」と題し「土日ミルク」や「I♡MILK」ロゴのフェイスペイントを行ったところ、多くの来場者がトライするなどフェス気分を大いに盛り上げました。

このフェイスペイントは、特定非営利活動法人日本フェイスペイント協会の協力を頂き行ったもので、オリジナルのペイントには多くの来場者の注目が集まりました。(M.A)



▲ いらっしゃいませ



▲ 学乳パッケージコーナー

ペイント中 ▶



▲ 理解醸成



▲ フェイスペイント担当



▲ ガシャポン

酪農部  
発

## 全国農協乳業協会 「令和6年度 経営者研修会・意見交換会」の 開催について

酪農部が事務受託をしている、全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和7年1月15日 KKRホテル東京「丹頂の間」にて、令和6年度経営者研修会・意見交換会を開催いたしました。

本研修会は、毎年行政からの情報提供と、直近の社会情勢に鑑みたテーマ等で構成しており、本年度は（一社）Jミルクと農林水産省の計3題の講演を実施いたしました。

冒頭、大久保会長より、昨今の酪農乳業情勢について、都府県の酪農家減少が続く中で、改めて「農協プラント系乳業」が地域に存在することの大切さについて挨拶がされました。また、石川県のアイ・ミルク北陸(株)廣田社長より令和6年1月1日に発生した能登半島沖地震後の各地からの支援への感謝と、現在の被災地域の状況等について情報提供がされました。

その後講演①として、（一社）Jミルク生産流通グループ 齋藤専任部長より、「マテリアリティの設定と、戦略ビジョンの見直しについて」講演をいただきました。（一社）Jミルクを中心に、2019年

10月に策定した「提言（戦略ビジョン）」の見直し経過や、持続可能な酪農乳業の重要課題（マテリアリティ）について説明がされました。

講演②は、農林水産省畜産局牛乳乳製品課白尾課長補佐より、「酪農・乳業の現状と課題の整理」と題し、直近で実施された酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（酪肉近）の策定に向けた議論の経過や、生乳生産基盤を維持するための「消費拡大」等についてお話をいただきました。

最後に講演③として、（一社）Jミルクより「A2ミルク “いま、わかっていること、まだわかっていないこと” について」と題し、日本国内でも少しずつ製品が見られるようになった「A2ミルク」について、現時点で明らかになっている科学的エビデンスに基づく性能やその特性について説明がされました。

講演の後には「意見交換会」として参加者から、資材価格や光熱費等の上昇に対する諸課題について意見交換がなされました。

本研修会は、（一社）Jミルクの国産牛乳乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しました。（Y.A）



講演風景 ▲▲



名古屋  
支所発

## 東海ブロック酪政連協議会 「令和6年度全体研修会」開催

令和6年12月18日(水)名古屋国際センター会議室（愛知県名古屋市）において【東海ブロック酪政連協議会 令和6年度全体研修会】が開催されました。

今回は北海道大学院農学研究院准教授 清水池義治氏を講師に迎え「ミルクでつなぐ未来への道－食料安全保障を支える日本酪農の役割－」と題した研修会を行いました。

『「令和の酪農危機」で続く日本酪農の困難の

中、地域社会の維持・発展や食料安全保障の確保には酪農が欠かせないこと、そのために目指すべき酪農政策とその実現に向けて求められる「未来への道」』について、お話を伺いました。

今後、酪農家と組合職員がどのような行動を起こすべきかを考える、とても有意義な研修会となりました。（S.M）



▲ 講師：清水池准教授



▲ 研修会風景



▲ 開会挨拶(清水委員長)

令和  
7年

# 各地域酪農青年女性会議酪農発表大会

開催のご案内

発表大会／開催日	開催場所
第50回北海道酪農青年女性会議酪農発表大会 3月27日(水)	〈札幌ガーデンパレス〉 〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西6丁目3-1 TEL:011-261-5311
第52回東北酪農青年女性会議酪農発表大会 3月24日(月)	〈ホテル ニュー水戸屋〉 〒982-0241 宮城県仙台市太白区秋保町湯本字薬師102 TEL:022-398-2301
第52回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会 3月17日(月)～18日(火)	〈ホテルエピナール那須〉 〒325-0302 栃木県那須郡那須町高久丙1番地 TEL:0287-78-6000
第52回中部酪農青年女性酪農発表大会 3月13日(水)～3月14日(金)	〈グランドメルキュール浜名湖リゾート&スパ〉 〒431-0101 静岡県浜松市中央区雄踏町山崎4396番地の1 TEL:053-592-2222
第54回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会 4月10日(水)	〈米子コンベンションセンター 国際会議室〉 〒683-0043 鳥取県米子市末広町294 TEL:0859-35-8111
第52回九州酪農青年女性酪農発表大会 4月16日(水)～17日(木)	〈サザンビーチホテル&リゾート〉 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町1-6-1 TEL:098-992-7500



10/9	自由民主党総合農林政策調査会・農林部会合同会議（於：自由民主党本部）同会議において、柴田委員長は、未だ厳しい各地の酪農情勢を伝えるとともに、令和7年度酪農関連対策・予算確保にかかる要請を行った。	12/13 12/24	令和7年度畜産物価格等に係る要請活動（正副委員長）
10/14	第50回衆議院総選挙が公示され、正副委員長は投開票日前日まで、全国の酪政連推薦候補者の陣中見舞いを行った。	1/10	日本の畜産ネットワーク 江藤拓農林水産大臣を表敬訪問（柴田委員長）  ▲ 畜産ネットワーク 江藤農水大臣面会
11/13	鹿児島県酪農政治連盟要請活動に随行（於：衆議員・参議院議員会館）		自由民主党酪政会総会（於：自由民主党本部）柴田委員長は、令和7年度畜産物価格及び酪農関連対策への感謝の意を述べるとともに、依然として厳しい状況下にある酪農情勢を鑑み、今後も更なる支援を要請したい旨の意見を述べた。  ▲ 自由民主党酪政会 森英介会長 挨拶
11/19	自由民主党総合農林政策調査会・農林部会・農政推進協議会合同会議において、柴田委員長は税制改正要請を行った。	1/22	 ▲ 酪政会で挨拶をする 自由民主党 鈴木俊一総務会長  ▲ 酪政会での柴田委員長
11/20	酪政連新潟県支部要請活動に随行（於：衆議院・参議院議員会館）		三役会議・中央委員会（於：自由民主党本部）今後の要請活動等について協議
11/21	正副委員長会議（於：酪農会館）会議終了後、自由民主党 森山 裕幹事長・赤澤 亮正経済再生担当大臣を表敬訪問		
12/12	正副委員長会議（於：酪農会館）今後の要請活動等について協議 会議終了後、森 英介酪政会会長・築 和生畜産・酪農対策委員長を表敬訪問		
12/13	自由民主党畜産・酪農対策委員会において、柴田委員長は令和7年度畜産物価格及び酪農関連対策、予算に係る要請を行う。		

第4回目は、ケガのリスクに備える「酪農傷害共済」についてご紹介いたします。酪農家の皆様は、一般の方と比べるとケガをされる率が非常に高く、かつ手術を伴うような重傷のケースが多いです。是非とも傷害共済で万が一に備えて下さい。また、来る3月1日から補償内容をパワーアップさせて「**自転車保険**」としての機能も充実します。掛金の変更はありませんのでご安心下さい。

### この共済の特徴は6つです

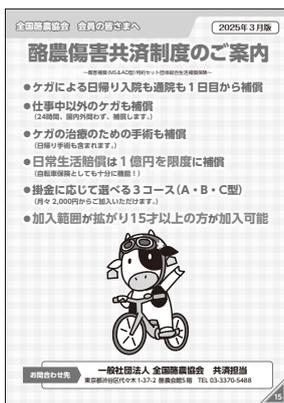
- 1 ケガによる日帰り入院も通院も1日目から補償
  - 2 仕事中以外のケガも補償
  - 3 ケガの治療のための手術も補償
  - 4 **日常生活賠償は1億円を限度に補償**  
⇒ **自転車保険としても十分に機能**
- ※ 日本国内で発生した賠償事故には、示談交渉サービスが利用できます
- 5 掛金に応じて選べる3コース (A・B・C型)
  - 6 **加入範囲が拡がり 15歳以上の方が加入可能**となりました



▲ 自転車用シール



▲ 傷害共済マスコット



パンフレットは  
QRコードからご覧いただけます。



➔ <http://www.rakunou.org/kyosai/pdf/shogaikyosai.pdf>

酪農共済制度は、他の保険・共済とは異なり、酪農家・酪農協職員等向の制度であり、一般の方は加入することはできません。

酪農共済制度に関する問い合わせ、各制度のパンフレットご希望の際は、下記までお問い合わせください。



一般社団法人 **全国酪農協会**

電話 03 (3370) 5488

[www.rakunou.org](http://www.rakunou.org)

## 03 対策

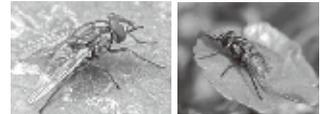
### ✓ 早期発見とまん延防止（発生してしまった場合の緊急対策）

- 日頃の健康観察により**早期発見**し、発症牛の速やかな**自主淘汰**で発生源を断つとともに、発症牛の生乳出荷や発生農場の牛の家畜市場等への移動を**自粛**してください(病変が現れる前に発熱が見られることに注意)
- 面的に拡大してしまった場合は、速やかな**ワクチン接種**をお願いします

### ✓ 発生予防（発生を未然に防ぐための対策）

- 農場の**吸血昆虫を減らす**※3対策をお願いします
  - ・ 窓や出入口に防虫ネットを設置する、殺虫剤をローテーション散布する(成虫対策)
  - ・ 牛房の隅など牛が踏みつけない場所などにIGR剤を散布する(幼虫対策)
  - ・ サシバエは牛舎周辺の雑草で休憩するため、雑草を刈る
- 農場間で**ウイルスを伝播しない**対策をお願いします
  - ・ 寒い時期はハエが暖かい車両に集まるため、車両内外の洗浄、殺虫をする
  - ・ 搬入出する牧草などにハエが潜んでいないか、確認する

※3: 特に、農場を中心に生活するサシバエへの対策が重要です。福岡県の発生農場では、サシバエの少ない農場内では感染拡大が抑えられていました。なお、特に冬前のハエ1匹は来シーズンの1万匹に相当すると言われるほど対策が重要です。



写真提供：住化エンバイロメンタルサイエンス(株)

## 04 支援策

### 01 まん延防止・ワクチン接種の推進

- 発症牛や発生農場由来牛を自主淘汰した場合の**再導入**への支援（乳用初妊牛・肉用繁殖素牛 60万円/頭）※4
- 出荷自粛中の生乳の適切な廃棄処分に係る費用への支援
- 農場の消毒や**吸血昆虫**対策への支援
- ワクチンの**無償配布**※5
- ワクチン接種の影響に関するリスクコミュニケーション
- ワクチン接種県（福岡県）からの輸入を一時停止した米国との協議を継続

### 02 経営支援

- 日本政策金融公庫の農林水産業セーフティネット資金の円滑な融通、公庫支店に相談窓口を設置
- 家畜疾病経営維持資金の対象に本病を追加
- 国から飼料関係団体に対する飼料代金の支払猶予の要請
- 円滑な生乳の出荷再開に向けた検査体制の整備
- 子牛の引き取り先・販路確保に向けた関係者間の調整

※4: 令和7年度もALIC事業で切れ目なく支援  
※5: JRA畜産振興事業により日本動物用医薬品協会が配布

## 05 ワクチンの効果

- ランピースキン病には**発症を予防できる**ワクチンがあります

#### 有効性

- ✓ 韓国では全頭へのワクチン接種以降、発生件数が**大幅減**※6
- ✓ 撲滅のために**最も有効なツール**として国際機関が推奨

#### 安全性

- ✓ 海外で15年以上にわたり約3,000万ドーズ以上が使用され、重篤な副反応はほぼない
- ✓ 副反応として一時的な乳量減少や注射部位の腫れ、皮膚の結節等が見られるが、通常は自然に消失する
- ✓ ワクチン接種牛の生乳や肉を摂取することによる健康リスクは無視できる程度

- 国内ではMSD Animal Health社のワクチンを備蓄中

ワクチン接種完了前後のLSD発生状況(韓国)

	発生期間	発生件数
接種完了前 (2023年)	33日間 (10/19-11/20)	107件
接種完了後 (2024年)	120日間 (8/12-12/9)	23件

※6: 2023年11月20日に全頭を対象とした接種が完了。2024年の発生をゼロにできなかったのは、一部にワクチン接種漏れがあったためと韓国政府は分析

ランピースキン病に関する最新の情報は、農林水産省のHPをご確認ください。

➔ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/lsd.html>



# ランピースキン病の早期発見とまん延防止対策のお願い

2024年11月、国内ではじめてのランピースキン病の発生が福岡県で確認されました。この病気は、発症牛のほとんどが自然に治りますが、発症牛の生乳出荷や移動の自粛が必要となります。地域でのまん延を防ぎ、畜産経営への影響を最小限に抑えるため、健康観察による早期発見と自主淘汰、まん延防止対策をお願いします。

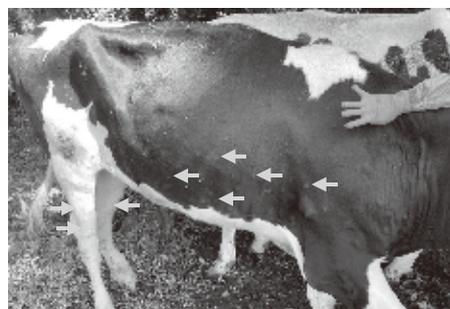
## 01 ランピースキン病とは

**特性** 発熱、乳量の低下、皮膚に病変(結節)が生じる牛の病気  
人には感染せず、畜産物の食用も安全

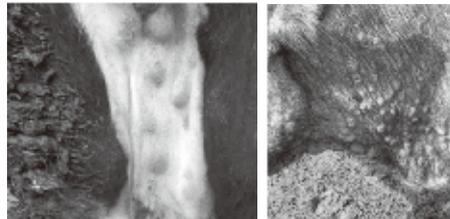
**予防・治療** 致死率は低く、ほとんどの牛が徐々に回復する  
有効なワクチンで発症予防できる

**伝播経路** 主にサシバエ等の吸血昆虫を介して拡大  
感染牛や車両、資材、人の移動でも拡大

**影響** 発症牛の生乳出荷や移動の自粛



結節 (全身性)



結節

結節

写真提供: FAO、State Central Veterinary Laboratory in Mongolia

 疑わしい症状を見つけたら、すぐに獣医師又は家畜衛生保健所に連絡ください

## 02 生乳出荷・牛移動の自粛をお願いします

### STOP 生乳の出荷

- 発症牛の生乳の出荷を自粛
- 非発症牛(同居牛)の生乳は出荷可能



### STOP 牛の移動

- 発生農場からの牛の移動を自粛<sup>※1</sup>
- ワクチン接種牛は個別に自粛解除(下記参照)



ワクチン接種や発症から一定期間経過すると自粛が解除されます

発症牛：判定日から28日目より後に行う検査<sup>※2</sup>により陰性を確認

同居牛：農場内で最後に発症した牛の判定日から28日目より後に行う臨床検査で陰性を確認

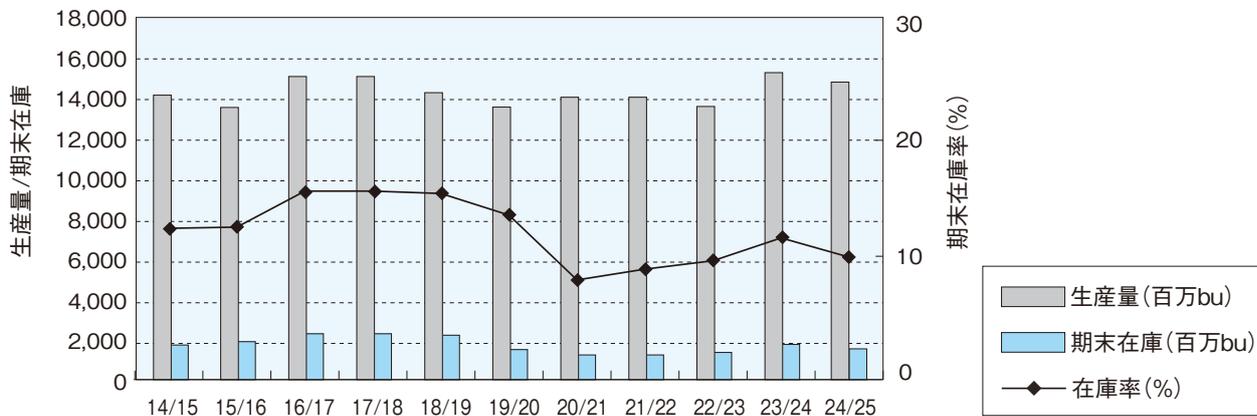
ワクチン接種牛：接種から3週間経過後、臨床症状がないこと

※1：非発症牛(同居牛)のと畜場への出荷は可能 ※2：原則として血液による抗原検査、他の農場や家畜市場に移動する場合は皮膚による抗原検査

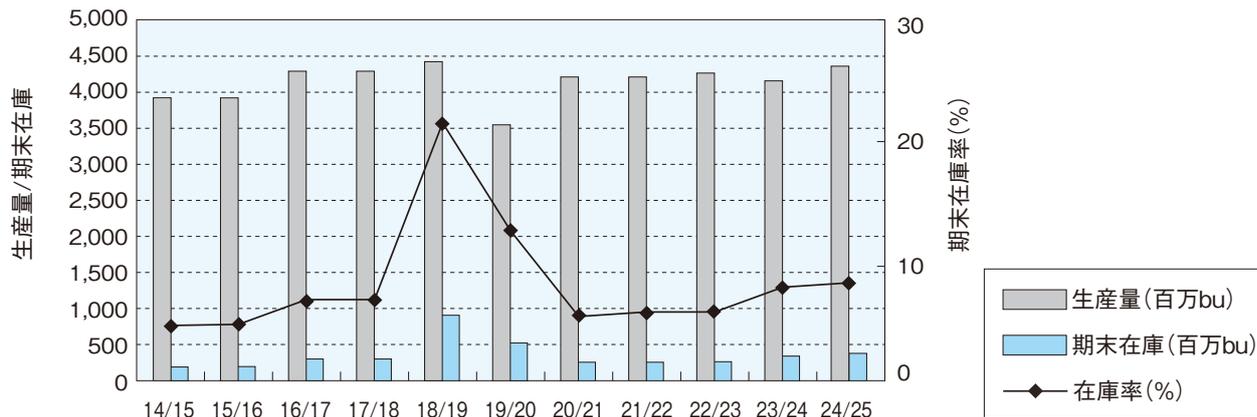


		23/24年産	24/25年産
1月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	94.6	90.6
	単 収(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3
	生 産 量(ブッシェル)	153億4,100万	148億6,700万
	需 要 量(ブッシェル)	149億6,600万	151億1,500万
	期末在庫(ブッシェル)	17億6,300万	15億4,000万
	在 庫 率	11.78%	10.19%
	トウモロコシ 相場動向	今回の需給報告で予想を超える単収の低下が発表されたことで、大幅に期末在庫が減少する結果となった。この影響からシカゴ定期は大きく値を上げている。	
大豆粕相場動向	アルゼンチン産大豆作付地域での高温乾燥懸念により、シカゴ大豆粕定期は反発した。向こう1-2か月の天候が生育の重要な要因となっており、引き続き天候相場になると思われる。反発要素として警戒が必要。		
槽糠類	【一般フスマ】 1月に薄力粉の粉化改定があることから主製品の先取需要が発生。ふすまの発生は増えたものの、飼料工場でも年末年始に向けた先取需要が発生したことで在庫は適正レベルとなっている。先取の反動が生じれば、再度在庫は重くなる可能性はある。		
	【グルテンフィード】 主製品の不需要期から、国産の需給は逼迫しているものの、中国産の生産量が増えていることから受け渡しは問題ない見通し。		
海上運賃	石炭や鉄鉱石の需要に対して十分な船舶数があり、直近は軟調に推移している。ただし、原油は高値水準となっており今後の動きには注視する必要がある。		

### 米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



### 米国産大豆生産量と期末在庫の推移





# 輸入粗飼料の情勢

令和7年 1月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸航路では11月末のサンクスギビングデー（感謝祭）前から出荷が混み合い、本船スケジュールの乱れが続いていましたが、12月に入っても状況は改善されず悪化しており、元々のスケジュールから2～3週間後ろ倒しになっている本船も散見されています。2月には中国の旧正月も控えており、それまでは中国発着の貨物が増加し、旧正月中には中国に発着する貨物の流通量が一時的に低下し、スケジュール調整のため本船を間引き運航する可能性もあるため、動向を注視する必要があります。また、北米西海岸北部(PNW)では降雪の影響で、内陸からの貨車の遅延や、道路の通行止めも発生しており、海運情勢が安定するまでには時間がかかる見通しです。
ビートパルプ	【米国産】 24/25クロープの産地在庫は売約済で、ビートパルプの製造は5月中～下旬まで続く見通しです。米国内の需要は現在まで堅調に推移していたものの、搾乳飼養頭数の減少や、とうもろこしや大豆粕が豊作であったことから今後、軟化すると予想されています。
アルファルファ	24年産の収穫は終了しました。ワシントン州やオレゴン州では春先の生育に適した冷涼な気候や好天に恵まれたことにより1番刈では上級品が多く収穫されました。以降の刈取り番手では夏場の気温上昇や、山火事による煙の影響で乾燥に時間が掛かったことで、色褪せた過乾燥気味の品質も発生しましたが、全体を通して良品が中心となりました。荷動きについては、1月下旬の米国大統領就任以降、米中貿易戦争が再発する可能性が懸念されていることや中国の旧正月もあり前倒しの注文も増加しています。産地在庫について、上級品は米国内向けや輸出向けで完売していますが、相場が好転することを期待し一部の生産農家では中～低級品在庫を保持しているようです。カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは輸出向けの生産は終了しています。DIP（休耕地政策）に参加した一部の圃場では一定期間水入れを行わなかった影響により根が枯れて再播種が必要な圃場も出ています。25年産でも継続してDIPが実施される見込みのため、作付面積は例年並と予想されています。灌漑局の発表によると、12月15日時点でのアルファルファの作付面積は149,964エーカー（前年同期は145,411エーカー）で前年同期比103%と増加しています。
チモシー	【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバーグでは24年産の収穫作業が終了しました。24年産1番刈は上級品中心の発生となり、中～低級品の発生は限定的となりました。中～低級品を中心に荷動きは順調に推移しており産地在庫の売約も進んでいるため、一部の輸出業者では値上げを行っています。
	【カナダ産】 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区ともに24年産の収穫作業は終了しており、南部レスブリッジ地区の1番刈の品質は上級品から中級品、中部クレモナ地区の1番刈の品質は中級品の発生が中心となりました。2番刈は輸出需要も低迷しており、カナダ国内で多く取引されています。
スーダングラス	24年産の収穫は終了し、作付面積は大幅な減少となりました。主な輸出先である日本向けの需要も低迷していますが、昨年と比較すると出荷も安定しています。23年産の在庫に加え、未だに22年産の旧穀在庫を抱えている輸出業者もいるため作付面積の減少による供給力に懸念はありませんが、今後の相場次第では今期の生産量と繰り越し在庫より需要が上回ることも考えられるため注視が必要です。また、25年産の作付面積は24年産並～減少すると予想されていますが、現在、小麦の相場も低迷していることから、スーダングラスの作付面積増加が期待されています。灌漑局の発表によると、12月15日時点の作付面積は875エーカー（前年同期は742エーカー）となっており、前年同期比118%となっています。
クレイングラス	<b>クレインは全酪連の登録商標です。</b> 産地では24年産のクレイングラスの収穫は終了しました。灌漑局の発表によると、12月15日時点の作付面積は22,915エーカー（前年同期21,542エーカー）となっており、前年同期比106%と増加しています。25年産のDIP実施による補助金確保を目的とした、牧草以外の農作物からクレイングラスへの転作が作付面積の主な増加要因となっており、生産農家もDIPに期待が寄せられています。日本向け需要については安定していますが、韓国向けは堅調に推移しており、今後の相場に影響を及ぼす可能性もあるため注視が必要です。
バミューダ	24年産のバミューダは国内の馬糧向け需要や種子の相場も堅調に推移したことで、昨年を上回る作付面積となりました。25年産でも更なる作付面積の増加が期待されています。灌漑局の発表によると、12月15日時点の作付面積は77,531エーカー（前年同期：68,236エーカー）前年比114%と増加しています。
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、24年産の収穫は終了しています。24年産は降雨を避けるために収穫作業が例年より遅く開始されました。韓国では稲わらが不足していることから安価品として代替されているため、需要は堅調に推移しています。
オーツハイ	24年産オーツハイの収穫作業は終了しています。西豪州では生育期間中の降雨に恵まれたことにより、収量は昨年と比較し増加しましたが、一部の圃場では、乾燥に時間を要したため色褪せたような品質も発生しており、中級品が中心に収穫されています。南豪州では、生育期間中の降雨が少なく、乾燥した気候が続いたことで収量は大幅に減少し、降雨不足により枯れたような茶葉や雑草の混入も多く、輸出向けに適さない品質も発生しています。東豪州でも生育期間中の降雨が少なく、乾燥した気候が続いたことで収量は平年並～以下と地域によって異なっていますが、収穫された品質は上～中級品が中心となっています。ウィートストローについては現在、収穫作業が本格化しています。西豪州では天候に恵まれたことで、良品が発生していますが、南豪州と東豪州の一部の地域では11月下旬に降雨が続いた影響で変色している雨当たり品が発生しています。

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏名
<b>■令和7年2月1日付異動発令</b>		
企画管理部 副部長 兼 財務課長	企画管理部 副部長 兼 経理課長	佐藤 一昌
企画管理部 経理課長	福岡支所 次長 兼 総務課長	松下 裕
東京支所 栃木事務所長代理	札幌支所 釧路事務所	熊倉 良介
総務部付外向 (一社)酪農ヘルパー全国協会 事業第2部長	総務部付外向 日本酪農政治連盟 事務局長	吉村 薫
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)本社 管理部長代理	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鹿島工場 次長 兼 総務課長	柳館 真次郎
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鹿島工場 工場長	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)釧路工場 工場長 兼 総務課長	植松 太一
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鹿島工場 総務課長	購買生産指導部付外向 (株)日本ミルククリプレイサー 管理課長	秋谷 崇之
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鳥栖工場 工場長 兼 製造課長 兼 全国酪農飼料(株)九州支店 支店長	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鹿島工場 工場長 兼 製造課長	三浦 徳逸
購買生産指導部付外向 (株)日本ミルククリプレイサー 品質管理課長代理	大阪支所 業務課長代理	大島 悠樹
<b>■令和7年2月1日付昇進発令</b>		
総務部 総務・広報課長	総務部 総務・広報課長代理	松本 千穂
購買生産指導部 購買企画課長代理	購買生産指導部 購買企画課 兼 酪農生産指導室	佐藤 瑛子
購買生産指導部 酪農技術研究所 復興牧場準備室長 兼 研究員	購買生産指導部 酪農技術研究所 復興牧場準備室 研究員	小橋 有里
札幌支所 道北事務所長代理	札幌支所 道北事務所	生野 剛
大阪支所 近畿事務所長	大阪支所 近畿事務所長代理	荻原 慎介
福岡支所 総務課長	福岡支所 総務課長代理	羽地 紀幸
<b>■令和7年2月1日付兼務発令</b>		
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)北海道支店 支店長 兼 管理課長 兼 全国酪農飼料(株)釧路工場 工場長	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)北海道支店 支店長 兼 管理課長	中田 秀明
購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鳥栖工場 総務課長 兼 全国酪農飼料(株)九州支店 管理課長	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鳥栖工場 総務課長	長谷川 和典
<b>■令和7年2月1日付兼務解除発令</b>		
企画管理部 副部長	企画管理部 副部長 兼 財務課長	松永 明久
総務部 部長	総務部 部長 兼 総務・広報課長	津田 知亮
大阪支所 購買畜産課長 兼 業務課長	大阪支所 購買畜産課長 兼 業務課長 兼 近畿事務所長	瀧本 慎也



# 乳牛産地情報

令和7年2月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	28~38	→	札幌管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で103.7%、累計で100.3%、苫小牧管内月計で102.2%、累計で99.0%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月中旬分娩中心となります。需要が高い春分産が出回ることから、やや強含みで推移することが見込まれます。出回りの資源状況については、雌雄選別腹、F1腹ともに用意できる状況にあります。当地域は、高能力牛を保有する酪農家も多いことから、成績が期待できる牛のご紹介も可能でありますので、導入のご要望がございましたらご注文のほど、よろしくお願いいたします。
	初妊牛	58~68	▲	
	経産牛	40~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~40	▲	根釧管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で104.3%、累計で101.5%、中標津管内月計で101.4%、累計で101.5%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月中旬分娩中心となります。需要の多い春分産の牛が中心となるため、相場はやや強含みに推移すると予想されます。腹別の資源状況については、雌雄選別腹、F1腹ともに潤沢にある状況です。価格については、雌雄選別腹、F1腹、和牛受精卵移植腹ともに堅調に推移すると見込まれます。また、育成牛に関しましては、春生まれ中心の取引になることから、やや強含みの相場になると見込まれます。経産牛につきましては、出回りが少ない地域であることから相場は横ばいで推移しております。
	初妊牛	58~68	▲	
	経産牛	40~50	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	30~40	▲	帯広管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.1%、累計で101.5%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月中旬分娩中心となります。春分産の需要により、引き合いは強くなるのが予想され、価格はやや強含みで推移すると見込まれます。腹別の資源について、雌雄選別腹、F1腹共に出回りがございます。腹別による価格差は雌雄選別腹が軟調に推移している状況です。育成牛につきましては、春生まれの牛が中心となりますので、堅調な相場となっております。即戦力となる経産牛につきましては、引き合いは変わらずあり、先月同様の価格帯を維持し横這いで推移されると思われます。
	初妊牛	58~68	▲	
	経産牛	40~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	28~38	→	道北管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で98.6%、累計で98.3%、北見管内月計で103.6%、累計で102.2%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月下旬~5月中旬分娩が中心となります。本格的に春分産が出回る事から、都府県からの引き合いが強くなるものと思われ、値動きは強含みに推移すると見込まれます。腹別の資源状況については、今年の夏場の気候がそこまで暑くならなかったこともあり、雌雄選別腹、F1腹ともに販売向けの資源は確保できる状況にあります。経産牛については、道内酪農家が即戦力を求める動きがあり、分娩の近い経産牛の価格は強含みで推移するものと予想されますが、産次数を重ねている牛は30万円前後で取引されると見込まれます。
	初妊牛	55~65	▲	
	経産牛	35~45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~40	▲	道内の1月中旬までの生乳生産量前年比は102.6%、累計で101.0%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、人気の高い春分産が本格的に出回る事から、相場はやや強含みに推移する見込みです。資源状況については、各地域で雌雄選別腹、F1腹共に十分に確保が出来る状況となっております。都府県では昨年の猛暑の影響により春分産の牛が不足気味となっており、今後も導入意欲が続く事が予想されます。そのため、相場についても堅調に推移すると見込んでおります。道内農協の協力の元、庭先購買を中心に要望に合った搾乳用素牛を購入して参ります。ご希望がありましたら、お早めにご注文をいただきますよう、よろしくお願いいたします。
	初妊牛	58~68	▲	
	経産牛	40~50	→	

訂正

本紙1月号(No.712)3ページに掲載しました新年挨拶の文中に誤りがありましたので、訂正いたします。  
 <誤> 「食料の安定供給の確保」が掲げられました。 → <正> 「食糧安全保障の確保」が掲げられました。

## 今月の表紙

今月の表紙は「第14回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「うしさん! いまから美味しい餌やるぞ~♪」(熊本県 宮本武士氏 撮影)です。



## 編集後記

- 新しい年を迎え早2ヶ月。厳しい寒さが続いておりますが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。各地の積雪による被害も心配です。事故のないように安全には十分気を付けてください。
- 3月中旬から開催される、各地域の酪農青年女性会議の酪農発表大会の日程を掲載しました。暖かく過ごせる日も増えてくる頃です。皆様、お誘い合わせの上、是非、ご参加ください。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。  
[shidoukikaku@zenrakuren.or.jp](mailto:shidoukikaku@zenrakuren.or.jp)

令和7年2月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 2月号 No.713

●編集・発行人 津田知亮  
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会  
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館  
 TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



### 私のおっちゃんの「うしのさくにゆう」

淡路市立北淡小学校 4年（西日本） 上田楓

#### 今月の入賞作品は…

淡路市立北淡小学校 4年（西日本）上田楓さんの作品です。

搾乳機に繋がれて大人しく前を向く牛さんを、鋭い観察力とハイセンスな画面構成で描いてます。近くで見ると牛さんは目だけこちらを向けていて、気にしてる様子が描かれています。牛さんの体形や柄、鼻環や鎖を丸みのある曲線で描き、鉄柵や背景の柱などを直線で描いてバランスよく画面を構成しています。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第50回らくのうこどもギャラリー」で全国255点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議